

# かいたく

教会のない地域に教会を 刈り入れ場に働き人を



あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなただを歩ませられたすべての道を覚えていなければならぬ。それは、あなたを苦しめて、あなたを試し、あなたがその命を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。  
(申命記八章二節)

昨年初春から感染拡大が始まり、教会の様々な活動が停止したかのように感じられます。その一方で進んでしまっているのが、「分断」ではないだろうか心配しています。

米国大統領選の時、「分断」という言葉が多く聞かれましたが、それはコロナ禍の中で身近に感じられるようになりました。感染による分断に始まり、ワクチンの可否による分断、最近ではワクチン・パスポートという言葉が出てきて、今後の社会生活にも分断が心配されます。教会内でもリモートなどにより交わりが少なくなり、また前述のワクチン可否の違いにより、互いの距離が開いてしまわないかという心配があります。

さて、コロナ後に教会は元の状態に戻ることができるのかということが、色々なところで語られているようですが、元に戻るのではなく先へ進んでいてほしいと願っています。そのために、分断ではなく一致を、不安ではなく主への信頼とそこから来る平安を、技術への依存ではなく御言葉への従順を、今のコロナ禍という試みの中で教えられ、また学び、次に繋げていきたいものです。

フェローシップの先生方と、また教会の兄弟たちと一年近く顔を合せていない状況ですが、私たちに祈りという交わりの手段が与えられています。互いに祈り合い、再び顔を合せて集う時が来ることを祈っていきましょう。

JBBF国内宣教委員会委員長・榎本昌博

かいたく 2021年9月発行 第84号 発行元:JBBF国内宣教委員会 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉4696-27 編集責任:榎本昌博 デザイン:元田健次

昨年5月に立ち上げました「新型コロナウイルス対応支援基金」は、現在、以下のような収支状況となっています。立ち上げ時に基金の一部として国内宣教委員会の一般会計より繰り入れた50万円を除いた諸教会からの献金額はおおよそ150万円で、これまでに支援のために支出した金額とほぼ同額となっています。



この「新型コロナウイルス対応支援基金」の働きは、まず諸教会からの要請と献金があって始まりそれに賛同して下さる皆様方の祈りと献金に加わって進められています。私たちの祈りは、早期にこの感染騒動が収束することですが、この問題と試練があったからこそ始められた愛の事業です。感謝して皆様にお礼申し上げます。

## 【新型コロナウイルス対応支援基金会計収支報告書】

収入			支出	
2020・5月	¥500,000	国内宣教一般会計より	2020・5月	¥0
5月	¥201,021	9教会	5月	¥90,000
6月	¥422,500	4教会	6月	¥50,000
7月	¥362,773	5教会	7月	¥80,000
8月	¥113,000	2教会	8月	¥340,000
9月	¥71,673	1教会	9月	¥50,000
10月	¥55,733	1教会	10月	¥800
11月	¥44,404	1教会	11月	¥0
12月	¥57,788	1教会	12月	¥0
2021・1月	¥37,943	1教会	2021・1月	¥0
2月	¥42,000	1教会	2月	¥0
3月	¥28,000	1教会	3月	¥0
4月	¥44,000	1教会	4月	¥0
5月	¥18,610	2教会	5月	¥300,000
6月	¥12,000	2教会	6月	¥610,000
7月	¥7,520	2教会	7月	¥1,500
8月	¥53,500	3教会	8月	¥20,000
合計	¥2,072,465		合計	¥1,542,300

収入合計2,072,465円 - 支出合計1,545,300円 = 現在残金530,165円

2021年9月3日現在

### ～海外宣教委員会と共同で～

インドネシアで二人の牧師が新型コロナウイルス感染によって亡くなりました。お一人はジャカルタ近郊のタウファン牧師、もうお一人はメダンのバンチン牧師です。このことは海外宣教の分野ですが、ちょうど海外宣教委員長の佐藤先生と海外・国内の枠を超えて協力できることはないだろうか話し合っていた時でした。そこでお互いに協力し合って亡くなられたお二人の牧師のご家族へ共同で愛の献金を送ることにいたしました(この件については海外宣教委員会よりご報告があると思います)。

献金振込先(郵便振込)  
00140・2・654375  
JBBF国内宣教委員会



# Missionary LAVERN RODGERS



## 彼はまことの開拓者

甲府聖書バプテスト教会  
藤田 正彦

「さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出てきたのだから。」

マルコ一章三八節

7月26日、オリンピック4日目、コロナ感染者急増のなか、30名の教役者がキャンプ場に集まり、ラージャス宣教師を送る歓送会を持った。

会では、写真で綴る「日本宣教71年間の歴史」に続いて、山宮利忠師に日本人クリスチャンを代表して、感謝を述べ



ていただいた。師の霊的子供、孫、ひ孫が日本はおろか世界中に遣わされている現在の祝福を皆で確認した。

そして、ラージャス師の特別説教では冒頭のみ言葉から「あなたの住んでいる隣町に、もう一つ教会を開拓すれば、現在の100の教会は、200の教会になります。牧師の皆さん、一人一人、このことを本気で実行してください」と。

ラージャス師と42年間接するなかで学んだことは、師はあらゆる分野で開拓者だったということ。ここでは救霊以外の5つの分野の開拓について記す。

### 《1》 会堂建設の開拓者

自分たちが礼拝する場所は自分たちの手で建てるのです、と言っている師の姿は、実際静岡、清水、横浜、佐倉、調布、そして神学校と、そこに集まって来た人々と会堂や校舎を建てて来られた実績と相まって、これぞ開拓者と納得。伝道者とは、皆そうするものなんだと勘違いした私は、リトルラージャスマッシュぐら。おかげで、甲府を開拓して自分たちで会堂を建てあげることができた。主は不思議をなさる。ラージャス師は会堂建設のお手伝いをするネヘミヤビルダーズを立ち上げて、第一号・長野教会（写真）を建設した。



### 《2》 伝道者輩出の開拓者



青年聖歌隊を組ませ、劇団を作り、証や、特別賛美、聖書劇の特訓をして、8日間の大分伝道旅行へ（写真）。このメンバーから現在7人が伝道者・宣教師となり、後の大部分が、現役クリスチャンで各地域教会の柱となっている。「主のために楽しく犠牲を払う」青年指導理念の結果と理解する。青年は教会で楽しく交れて、自分の居場所が確認できれば、主に献身したくなるのかもしれない。

### 《3》 天幕集会・路傍伝道 福音コンサート開拓

おそらく日本初と思われる「歌うクリスマスツリー」コンサートは、大規模天幕集会の発展型と言えるだろう。調布駅前の音楽ホールに10002人を収容し行われた。これまでにアメリカの青年聖歌隊スマイトシンガーズを呼んで福音コンサートを経験済みのラージャス師は、日本人もそれが出来ること証明してみせた。NHKをはじめ新聞各社の取材で、教会の認知度は一気に高まった。



### 《4》 キャンプ伝道開拓



JBBF私有キャンプ場ならではの、霊的に高められ、純粹な信仰を鼓舞できるバイブルキャンプが可能となった。それぞれの教会のキャンプスタイルに100%合わせられるのが何よりで、霊的ストレスを感じない。2016年の夏は、7つの教会合同で第一回キッズフェロシップが行われ、スタッフを入れて95人の子供たちの顔を見て、ラージャス師は、「このちびっ子たちのためのキャンプ場なのです！止めてはいけない」と感極まったハレルヤが発せられた。

ラージャス先生が1950年から71年もの間、日本で宣教してくださったこと改めてもう一度心から感謝いたします。



# 恵みの足跡



つくばバイブル  
バプテスト教会

小泉 崇

として福田師夫妻が派遣、さらに2016年からは、山宮宣教師夫妻が派遣され、伝道が継続されました。この間多くの痛みを経験しましたが主は深い愛と憐みのうちに伝道所をお守り下さいました。

フェローシップ諸教会の先生方、兄弟のお祈りに心から感謝いたします。

つくばバイブル・バプテスト教会は、2021年5月5日、母教会である横浜聖書バプテスト教会より独立し、新たに歩み始めました。これまでの恵みを数えつつお証しさせていただきます。

## 《伝道の開始》

つくば伝道は、当時茨城県に転居しておられた横浜教会の会員家族数組の「茨城の地に聖書的バプテスト教会が建てられるように」との願いと祈りに端を発します。家庭集会を経て2008年5月5日、横浜聖書バプテスト教会の伝道所として長江師夫妻（現横浜教会牧師）が派遣され、つくば市城山を拠点に伝道を開始、開拓初期の大切な時期、クリスチ



ヤンホームを中心に多くの大学生が集い活気に満ちました。2013年、長江師夫妻が横浜教会の招聘を受けられ、後任

## 《独立に向かつて》

一方で私は20年間の小田原での働きを経て、山宮師の後を引き継ぐため2020年3月、家族と共につくばの地に移り住みました。当初秋頃の独立を目指していた伝道所は、新型コロナウイルスの渦中に置かれていました。住宅街の一角で日本家屋のリビングを集会所としていたため、適度な距離の確保が困難なことに加え、地域住民からは集まりを自粛してほしいとの要望が出されるようになりました。地域への理解を求めながら礼拝はライブ配信を併用し、集まりの再開と停止を繰り返す日々、未だかつてない経験でした。



いよいよ独立を果たそうとしていた時に大きな壁が立ち上がったのです。

しかし主は、実に不思議な方法で道を開いて下さいました。それは長年の祈りが積み上げられていた会堂移転という道です。既に多くの祈りと献金がさざげられていました。詳細は割愛しますが、広大な新しき土地を祈り求めていた私たちの目の前に、主は既存の会堂を指し示し取得へと導いて下さったのです。

2021年5月5日、つくば伝道の記念すべき日に伝道所は「つくばバイブル・バプテスト教会」として母教会から独立、私自身は牧師として就任するに至りました。コロナ禍に愛する兄弟とともに踏み出した新たな一歩、「わたしの羊を飼いなさい」との御言葉を感謝しつつ、主の恵みを心に刻みつけました。

## 《主と共にこれからも…》

2021年8月現在、教会は引越と整備の真最中です。今尚コロナ禍に置かれています。ポスト・コロナ時代を見据



# 伝道師就任にあたって



バイブルバプテスト  
北国分キリスト教会

堀 浩史

生が天に召されたことで葬儀の席ではじめてお会いした、牧師を失ったばかりの聖徒さんたちを前に、私はみことばの御用をさせていただくこととなったのです。

2019年10月13日、過去になかった規模の台風19号が関東地方を直撃し、大きな爪痕を残して過ぎ去った翌朝、電車が動いていなかったため、私は通行止めが解除されたばかりの首都高速道路を千葉県市川市に向けて車を走らせていました。それまで港北聖書バプテスト教会で13年間伝道師として奉仕させていただいておりましたが、他の教会でみことばを取り次ぐのは初めての経験でした。車の中で緊張していたのと同時に、何か主の導きを感じていたことを覚えています。バイブルバプテスト北国分キリスト教会からみことばの奉仕をお願いされたのは白根先生がご病気で2週間入院されたため、2回の礼拝説教のうち2回目を私が担当させていただくこととなったのです。ところが、その前の週の月曜日に先



バイブルバプテスト北国分キリスト教会は、東京都葛飾区と千葉県印西市を結ぶ北総線の江戸川を渡ったところにある北国分駅から徒歩10分ほどの場所にあります。北国分と書いて「きたこくぶん」と読むのは私も慣れるまでに時間がかかりました。1978年4月1日に白根喜代志師を牧師として設立された、今年で設立43年を迎えた歴史ある教会です。現在は聖徒20名ほどが礼拝に出席しています。そんな歴史ある教会の聖徒のみならず、横浜の教会から来た私を暖かく迎え入れてくださいました。その日、私は「まず主を褒めたたえることからはじめましょう」とメッセージしたことを覚えています。その日から、私は北国分キリ



さるのだろうかという不安、そして、こんな自分が羊を養っていくことができるのだろうかという牧会に対する不安が大きく私を襲いました。しかし、主はみことばを通して、そのことに答えてくださいます。ヨハネ三章二七節で「人は天から与えられるのでなければ、何も受けることができません」とバプテストのヨハネが告白していますが、私が受けているものは、主から与えられたものであるというのを改めて教えられました。



スト教会の講壇に毎週立つようになりました。白根良子先生をはじめ、聖徒のみなさんからはすぐにでも北国分に来てほしいと招聘の意思を頂きましたが、私自身は不安を抱えておりまして。まず、講壇を守ることで

2020年4月、新型コロナウイルスの感染者拡大による緊急事態宣言を受けて、各地の教会で礼拝をオンラインに切り替える動きが出て参りました。北国分キリスト教会もZoomによる礼拝に切り替え、私と数名のみで教会の礼拝を守りました。不安を抱える聖徒さんたちとどう向き合うのか、祈りながら模索する毎日でありました。ところが、私の不安を取り払うかのように、教会には新しい人々が送られ、その年の10月にはバプテスト式を行うことができ、そして、2021年4月に伝道師就任式を行わせて頂きました。白根先生が不在となった北国分キリスト教会のために、多くの方々にご心配いただき、また、お祈りいただきまして感謝を申し上げます。北国分キリスト教会は今週も元気にみんなで礼拝を守っております。主のお働きに感謝いたします。





# 伝道所の祈りの課題

# PRAYER



- ①新会堂の新しい地域での働き
- ②教会創立と経済自立
- ③コロナ禍中の伝道活動
- ④求道者の来会と救い
- ⑤信者の奉仕と成長
- ⑥日本人同僚者の備え
- ⑦新会堂改装工事の残り

アガペ聖書バプテスト教会  
(マイケル・バーゲット先生)



- ①礼拝出席の求道者3名の救いのため
- ②フィリピンの研修生4名の信仰成長のため
- ③家庭礼拝の3名の姉妹、2名の兄弟たちのため
- ④高齢者、障がい信徒のため
- ⑤働きの継承のため

甘木聖書バプテスト教会  
(吉澤 孝夫先生)



- ①独立のための良い基礎が築かれるように
- ②信仰告白され、教会に集われている方々がバプテスマを受け、教会に加わることができるように
- ③新来会者、救われる方々がさらに与えられるように
- ④伝道献身者が起こされ、働き人が与えられるように

上田聖書バプテスト教会  
(小川 敦司先生)



コロナ禍の中、病気や高齢の姉妹方の出席困難でオンライン礼拝中です。

- ①案内誌配布等で求道者が与えられること
- ②高齢の姉妹方の心身が守られること
- ③10名の基礎会員が与えられること
- ④伝道者の健康と後継者が与えられること。

船橋聖書バプテスト教会  
柏伝道所  
(三澤 隆男先生)



- ①新来者が与えられるように
- ②新会堂が与えられるように。現在自宅マンションと歴史博物館会議室にて集会を行っています
- ③英会話クラスの方々の救いのため。9名の方が参加しています
- ④インターネットの伝道活用のため。コロナ禍でのツールとして活用

葛城聖書バプテスト教会  
(森 善男先生)



皆様のお祈りのご支援を感謝いたします。

- ①瀬戸内市における宣教の前進と拡大のため
  - ②各集会に集う求道者の救いの導きと確信のために
  - ③教会独立の導きのために
  - ④青年たちの結婚の導きのために
- 続けてお祈りくだされば幸いです。

瀬戸内聖書バプテスト教会  
(澤 清嗣先生)



- ①礼拝を捧げる喜びと確信を、一人ひとり得られるように
- ②第三世代へ、宣教スピリットを継承できるように
- ③少子化傾向の地域においても子ども伝道を推進できるように
- ④御霊に導かれて、御霊の実の体現を覚えてもらえるように

千本浜聖書バプテスト教会  
(道下 義嗣先生)



- ①流山伝道所の独立、教会組織のために
- ②感染症の終息と、教会員やその家族が感染症から守られますように
- ③求道者が救いの決心に導かれますように
- ④伝道師家族の子供たちの救いのため

習志野聖書バプテスト教会  
流山伝道所  
(青島 義宣先生)



- ①松江の魂がさらに1人でも多く救われ、主と教会につながっていただけますように
- ②救われた魂が、忠実に礼拝出席出来ますように
- ③日曜学校に、新しい子供や休んでいる子供たちが集えますように
- ④新会堂についての主の導きがありますように

松江聖書バプテスト教会  
(柳谷 徹先生)